

	発行者	東京書籍株式会社	教育出版株式会社
	書名	新編 新しい国語	ひろがる言葉 小学国語
(ア) 教科・種目に共通な観点	①編修の趣旨と工夫	①「言葉の力」を核に、学習活動の手順を丁寧にし、「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」が、児童自身にもしっかりと分かるようにしている。	①誰にとっても使いやすい教科書を目指して、人権的配慮や視覚的配慮を十分に考慮した教科書のつくりになっている。
	(ア) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①各領域の学習の中で繰り返し扱うとともに、必要に応じて取り立てて学習する場面を設け、確実に定着が図れるようにしている。 ②1単元1領域を原則として指導事項を重点化するとともに、重点指導事項に即した具体的な言語活動を設定し、活動の目的や条件にそった課題解決的な学習を通して、必要な思考力・判断力・表現力等が身につくようになっている。 ③単元の冒頭に「言葉の力」を示して、何を学ぶのかという見通しがもてるようになっている。単元末の「振り返る」では、結果だけでなく過程への評価を促すような文言が示されている。	全体として「ことば」を中心にした教科書の内容構成になっており、ことばの学習を通して資質・能力の3つの柱が身に付くような工夫がされている。 ①児童に身近な題材を取り上げ、活動を通して学んだ知識が児童自らの言語生活に生かされるよう配慮がされている。 ②対話的な活動や協働学習の中で課題解決を図るようにすることで、深い学びを実現できるよう、各教材に学び合いの場が設けられている。 ③他者と交わりながら共に生きていく視点を児童がもち、自ら学び自ら生きる力を培えることを目ざし、国語科の視点から、言語活動を中心に据えた構成になっている。
	(イ) 市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	言語に関わる文化に触れることを通じて、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を養うようになっている。	「プログラミング的思考」「伝統・郷土や地域を愛する心」「心の発達」「生命の尊重」など、他教科と結び付けて学ぶことができる内容を考慮した教材選びがされている。
	(ウ) 内容と構成 ○ 小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧児童の学習上の困難さに応じた工夫 ○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に役立つように、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させるための工夫がされている。 ②他教科との合科的・関連的な指導、家庭や地域との連携が図れる教材や題材を積極的に取り上げている。また、国語科で身に付けた資質・能力が他教科等の学習に生かせるよう、各単元の「振り返る」段階において、「言葉の力」の活用を促す「生かそう」が設けられている。 ③文法と語彙それぞれに特化した「言葉相談室」を新たに設けている。キャラクターによる会話などから導入を図り、児童が自ら学習課題を見いだせるように工夫されている。 ④伝統的な言語文化に触れたり、言葉の由来や変化について学んだりする単元「伝えたい言葉」を、全学年通じて系統的に取り上げている。 ⑤言語活動においては、他教科等の学習や日常生活に即した題材を豊富に例示し、児童が自らの生活と結び付けて取り組めるようになっている。 ⑥1年上巻を入門期と位置づけ、幼児期に育まれた資質・能力を発揮しながらさらに伸ばしていけるよう、児童の関心や成長への願いに寄り添ったコンパクトな教材を中心に構成している。また、育まれた資質・能力が中学校でさらに生かされるよう教育課程を踏まえ、学習内容が系統化されている。 ⑦「情報の扱い方」に関する単元として「情報のとびら」を、2年生以上に年3か所設けられている。「関係」「倫理」「整理」「調査」の4つの観点で系統立てて教材化されている。 ⑧特別支援教育の知見を生かした教材や、ユニバーサルデザインの視点を踏まえた紙面デザインなど、全ての児童が学習上の負担がないようになっている。単元の学習で最も大切な「言葉の力」は、色やマークを活用して視覚的に捉えやすくなっている。また、動画や音声を使ったデジタルコンテンツが豊富に用意されている。	①見通しから振り返りまでの学習過程を位置付け、各教材に学び合いの場を設定することで対話的な協働学習を行い、深い学びが実現できるように配慮されている。 ②表現や情報に関する教材を中心に、言語活動の指針や内容のおさえなど、学習したことが他教科でも活用できるような構成がされている。 ③言葉を中心にした教科書編修で、大単元や小単元などどの教材でも、言葉に触れ言葉を通して学びが深まるように工夫されている。 ④文化としての日本語を大切に、伝統的な言語や文化について触れている教材を児童の学年・発達段階に応じて学べるよう配慮されている。 ⑤児童の発達段階に応じて、興味・関心を契機とした多様な言語活動が系統立てて展開されるよう工夫されている。 ⑥入門期には、挿絵を多用し、徐々に小学校での学びを深めていけるような教材の工夫がされている。また、6年生では、小学校段階での学習内容の着実な習得のための振り返りが設定され、幼児教育や中学校教育との学びが円滑に接続されるように配慮している。 ⑦必要な情報の取り出しや関係の整理ができるように、適切な学年で、その学年に応じた語彙や文法などの内容を取り上げる工夫がされている。また、まなびリンク(デジタルコンテンツ)や指導者用デジタル教科書などによる情報活用の工夫がされている。 ⑧同じ土台に立って学習できるように、どの児童にも読みやすいよう、色・レイアウト・文の書き方・挿絵など、細かな配慮がなされている。学びの過程が一目で分かるよう書かれており、児童が見通しをもって取り組み、学びを深められるように工夫されている。
(イ) 分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①概ね適切である。 ②5・6年生の教科書は、中学校との連携を考慮して学年で1冊となっている。また、説明文においてとびらの写真が見開きで掲載されており、児童が興味・関心をもって学習に取り組めるようになっている。 ③印刷は鮮明で、シンプルなレイアウト・配色であり、大事な情報に着目しやすく、学習に集中できる工夫がされている。	①各学年の配当時数、発達段階、他の教材との関連をふまえて単元の内容を考慮し、無理のない教材配列にされている。 ②全学年、上下巻の分冊にすることで、持ち運びの負担軽減に配慮している。 ③特別支援、視覚的支援が必要な学習者を含め、どの児童へも配慮された構成の工夫や編修がなされている。	
(イ) 教科・種目別の観点	①学習指導要領解説に示された言語活動例をもとに各領域（話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと）の資質・能力を育成するための題材として工夫や配慮がなされているか。	①(ア)(ア)② 参照。また、「取り組む」の冒頭に単元のためを提示し、解決に取り組む課題を明確にするとともに、学習の各単元に、どのようにすれば課題を解決できるかについての思考・判断を促す問いや「言葉の力」に関わる問いを設けている。	①「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材の「大事な言い方」、「読むこと」教材の「ここが大事」で、話や文章から情報を取り出して整理したり情報を扱うための文型の例を示したりすることを通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を高めようとしている。
	②語彙を豊かにするための題材として工夫や配慮がなされているか。	②(ア)(ア)③ 参照。また、巻末付録「言葉の広場」では、より多くの観点から学年段階に応じた語を集めて掲載している。6学年で延べ1200を超える語を取り上げている。	②身近なことを表す語句(低学年)・様子や気持ちを表す語句(中学年)・思考に関わる語句(高学年)の3つを、それぞれの学年で重点的に学べるよう工夫している。また、巻末「言葉の木」では語彙拡充のために語句をまとめて示している。さらに、語句を列挙するだけでなく、様々な文脈・場面で言葉を学ぶことで、実際の言語生活に生かすことができるよう配慮している。
	③読書活動の充実を図るための題材として工夫や配慮がなされているか。	③読書単元「本は友達」として、図書館活用、図書紹介と著名人の読書体験文、読書活動と、年間3か所設定し、生涯にわたって読書に親しみ習慣や態度を育めるようになっている。	③学校図書館の計画的な利用を図るための「情報活用教材」、日常の読書活動を活発に行うための「読書交流紹介」を全学年設けている。また、「学習のてびき」で同一作者の別作品の紹介をしたり、巻末の付録としてテーマごとに多様な図書の紹介をしたりしている。

	発行者	光村図書出版株式会社	
	書名	国語	
(ア) 教科・種目に共通な観点	①編修の趣旨と工夫	①予測困難な時代を生きていく子どもたちの未来に資するよう、学習指導要領に示された育成したい資質・能力を踏まえ、それを児童の目線から捉え直し、「目標」に反映させている。また、児童の「問い」を出発点とする学びを大切にしている。	
	(ア) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①全教材を通して言葉に着目し、語句を増やし、五感を磨き、日常生活に生かせるよう配慮している。 ②話題・題材は、児童の興味・関心や知的好奇心を喚起し、協働により新たな考えや価値を生み出せるものを厳選している。自ら課題を設定し、合意形成したり討論したりしながら考えを深める活動を設定している。 ③人と社会の多様性を認め、尊重する態度の育成につながるよう、さまざまな読み物や学習活動を設定している。また、全体を見通す・振り返るなどの場面、対話や助言し合う場面、深く考える場面があり、児童が自ら学習を調整できるようにしている。	
	(イ) 市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	対話活動を通して、ともに考え行動して問題を解決する場を積極的に設けている。自他の違いを尊重することの大切さに触れられる教材や学習活動を設定している。	
	(ウ) 内容と構成 ○ 小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧児童の学習上の困難さに応じた工夫 ○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①自ら問いを立て、学習を進めていく児童を育てていくために、巻頭や各単元で学びの流れが視覚化され、学び方そのものが定着する構造になっている。 ②他教科との関連が図れるように、話題・題材の選定や学習活動に配慮・工夫がされている。 ③(ア)(ア)①参照。1年下以降の巻末折り込みに「言葉の宝箱」を設け、児童が主体的に活用できるようにしている。 ④3年生以上各学年2か所に「声に出して楽しもう」を設け、俳句や短歌などの伝統的な言語作品に触れて音読や暗唱する学習の場としている。2年生以上各学年4か所に「季節の言葉」を設け、伝統行事や風物などを言葉とともに取り上げている。 ⑤日常生活における人との関わりの中で思いや考えを伝え合う力や、論理的に思考し豊かに想像する力を高めたりすることができるようにしている。 ⑥入門期には児童が学校生活に慣れるとともに、その学習意欲を大事にすることを考えて教材を選定している。6年生の卒業単元に「中学校へつなげよう」を設定し、小学校6年間で習得した言葉の力を確認し、特に身に付いた力とその活用場面を書くことを通して、中学校での学習に安心感をもてるようにしている。 ⑦児童の主体的な学びに資するよう、教科書の内容に連動したコンテンツを閲覧することができる。また、「情報の扱い方」に特化した教材を、理解し表現を伴った場面で習得・活用できる構成として2年生以上に設定している。 ⑧特別支援教育の観点から、全学年・全ページにわたり、専門家の校閲を受けている。学習の流れや情報のまとめ、大切なことを分かりやすく示し、学びやすい紙面レイアウトを採用している。	
(エ) 分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①概ね適切である。 ②5・6年生では中学校で使う形式と同じ学年1冊とし、中学校への学習環境の変化に配慮している。絵や写真、図やグラフなどは教材内容の理解を助け、イメージを豊かに広げられるよう適所に掲げている。 ③低学年は教科書体の文字を太くし、はっきりと文字の形が取れるように配慮している。見出しや小さな文字はUD書体を使用している。		
(イ) 教科・種目別の観点	①学習指導要領解説に示された言語活動例をもとに各領域（話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと）の資質・能力を育成するための題材として工夫や配慮がなされているか。	①「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉」の学習の冒頭に「問いをもとう」を新設し、学びを進めるイメージをもてるようにしている。「読むこと」では、作品・文章を一読した後の児童の心を揺さぶる呼びかけを示し、児童たちの考えたい思いを大切にしている。「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、これまでの経験や「やってみよう」思い、「伝えたい」思いが問いに繋がるように示している。	
	②語彙を豊かにするための題材として工夫や配慮がなされているか。	②(ア)(ウ)③参照。学習活動に関連する語彙を示して、思考を支える言葉と活動が結び付くようにするなど、教材を工夫している。	
	③読書活動の充実を図るための題材として工夫や配慮がなされているか。	③特設単元「本は友達」を学年に2か所設定している。日常生活においても自ら進んで本を手取る意識を育むことを意図している。各学年の巻末付録に、読書への意欲関心を喚起するために、「本の世界を広げよう」を設け、学年に適した本を、表紙写真、紹介文とともに提示している。	